

## 2013.11.24 「聖霊と共に一ここにも飢餓が」

ヨハネによる福音書13:31～35

今朝は世界バプテスト連盟女性部の「世界祈祷日」です。それにちなんで礼拝を共にします。世界で。さて、ヨハネ福音書では「夜」という言葉が多用されていますが、神の栄光が「暗くされる。隠される。覆われる」という意味ですが、これは神の栄光についての偽りのプロパガンダ－策動が－あったことを物語るものです。いつの時代も同じですが、福音はそういう策動に負けてはいけません。教会もそうです。教会もプロパガンダに負けてはいけません。教会の使命は普遍ですから。ところで神の栄光とは、神ご自身がわれわれ信ずる者に自己啓示されるものです。換言すれば、神の時－カイロス－がわれわれ人類の歴史の時－クロノス－への突入、交差することを意味している。「ことばは肉体となった」ということはそういうことです。

さて、今日の本題に戻りますが、現代人の思想と行為の規範としての聖書の戒めですが、「あなた方は互いに愛し合いなさい」ということを世の親も教師も教えますね。先輩は後輩に、年長者は年少者に、教えますがその理由は語りません。なぜ愛し合うのか語りません。

1984年、あのマザー・テレサが日本を訪れました。その時に「ここにも飢餓がある。愛の飢餓が」と語ったそうですが、確かに、今もそうですが殺人事件は日常茶飯事ですね。隣りの人は何する人ぞ、という希薄化した人間関係がありますね。彼女は広島まで訪ね、この広島の惨禍を世界で二度と繰り返してはいけない、と発言しています。愛と祈りの行為が世界平和への道ですとも。その理由は、「互いに愛し合いなさい」という神の戒めがあるからです。

最後に、余談ですが、今この国に原発事故と震災がダブルショックを与えていますが、東北地方は首都東京の水がめ、電力基地、この国有数の米作地帯ですね。その東北は辺境の地域とされませんが、この国の未来は東北地方のありようにかかっているのです。救いは辺境から来るのです。沖縄も辺境ですね。辺境は大事です。国の未来がかかっているからです。(名護)